

早稲田大学 文学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	大問 8 も、小問42(内訳記述式16問・記号30問)。2022年は大問 9、小問46問、記述式15問・記号31問。2021年は小問46問は同じだが記述式14問・記述式32問とわずかな変化。2020年と2019年は小問は計44問、記述式11問・記号33だった。正誤判定に一部ではあるが細かい出題がある。一方で記述式の空欄補充問題は基本的で易しい。全体としての難易度は昨年並み。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅰ〕	古代オリエントとギリシア	古代オリエントからの出題は定着。設問 1：正解はエ(ウル)。「スタンダード」の語から「ウルのスタンダード」という定番の語句を連想できれば簡単。「ウルの軍旗」と訳されることが多い。発掘者ウーリーに心当たりがあっても即答可能。どちらにしても「用語集」の説明文レベルである。設問 2：正解はエ。ア-テーベは上エジプトの都市。イ-新都テル=エル=アマルナはアメンホテプ 4 世没後に放棄された。ウ-カデシュでと戦ったのはラムセス 2 世。設問 3：正解は「アマルナ文書」。設問 4：正解は「アクロポリス」。設問 5：正解はイ(タレントウム)。	やや易
〔Ⅱ〕	3～8 世紀の中国	設問 1：正解は「南京」。三国呉では「建業」、東晋以降は「建康」となる。設問 2：正解はア。一見するとかなり厄介な年代配列問題に見えるがよくみると易しい。アの「昭明太子」は「梁の昭明太子」と言い習わされている通り南朝梁(502～589)の人物。それに対しイの「陶淵明」、ウの「王羲之」、エの「顧愷之」はすべて東晋(317～420)。東晋と梁の前後がわかれば即答できる。設問 3：正解はウ。日本と渤海が頻繁に通交したことは重要。設問 4：正解はエ。董仲舒は前漢武帝時代の人物。訓詁学は前漢末の劉向(りゅうきょう)にさきがけとして後漢の馬融、鄭玄で大成された。ア-法顕は『仏国記』が知られるが仏典の漢訳も行った。ただ戒律関係が中心のため漢訳事業では見過ごされがち。イは基本事項。入試では五経の構成の方が問われる。ウの鳩摩羅什は法顕と違い『法華経』など世に広く知られた仏典を漢訳した。十六国の一つ後秦の都長安に迎えられたことも重要。2022年に続いての出題でもある。設問 5：正解はウ。問題文が指定する「8 世紀後半」に対し、黄巢の乱(875～884)は 9 世紀。	標準
〔Ⅲ〕	イスラーム文化の伝播	設問 1：正解はエ。ムラービト朝が破ったのはガーナ王国。設問 2：正解は「シチリア」。設問 3：正解はエ。ガザーリーは「シー派」を批判。ニザーミーヤ学院の教授としても重要。設問 4：正解は「カーリミー商人」。設問 5：正解は「スーフイー」。	やや易

番号	出題内容	コメント	難易度
〔Ⅳ〕	中世後期西欧カトリック教会と教会改革	設問1：正解はウ。「ピピンの寄進」(756)はカロリング朝(751～843)の成立に先行。設問2：正解なし。※リード文に「11世紀末にブルゴーニュ地方…創建」とあるがそれに該当する修道院はない。ブルゴーニュ地方といえばクリュニー修道院を想起させるがクリュニーの創建は910年の創建である。設問3：正解は「カラコルム」。カラコルムを訪れたのはモンケ＝ハンに謁見したルブルック(仏王ルイ9世の使者)とグユク＝ハンに謁見したプラノ＝カルピニ(教皇インノケンティウス4世の使者)の二人。設問4：正解はア。エー・ジャンヌ＝ダルクは15世紀の人(オルレアンの囲みを解いたのは1429年)だがあとの3項目は時代が近い。ウ「クレシーの戦い」(1346)→イ「黒死病」(1347～51)→ア「ジャックリー」(1358)の順。ジャックリーの説明文に「黒死病の影響も…」とある場合が多いのでそれを想起できれば楽になる。設問5：正解はエ。ア-「ヘブライ語」から聖書を訳したのは宗教改革期ドイツのロイヒリン。ウィクリフはラテン語からの英訳。イ-「アダムの…」の一句はジョン＝ボール。ウ-コンスタンツ公会議で火刑に処せられたのはフス。設問6：正解はウ。「葡萄压榨機」は細かいがあり得る展開と想像。アの「グーテンベルク」(1400～68)は15世紀の人。イ-消去法で対象から外す。エ-「四十二行聖書」は大量には印刷されていない。また「民衆が読む」もあたらない。当時の聖書はラテン語で聖職者を中心とする少数の知識人のみが読み書きできた。設問7：正解はエ。『天球回転論』はコペルニクスの著作。設問8：正解はイ(利瑪竇)。利瑪竇ことマテオ＝リッチはエウクレイデスの『原論(ギリシア語で「ストイケイア」)』を漢訳(『幾何原本』)。	一部難
〔Ⅴ〕	中国王朝の宗教政策	設問1：正解はウ(莫高窟)。イ-雲崗石窟は山西省大同郊外。ア-ベゼクリク千仏洞はトゥルファン郊外。エの竜山石窟は山西省太原郊外にある北魏・東魏時代の石窟。ベゼクリクとともに高校・受験レベルではない。設問2：正解は「王重陽」。設問3：正解はア(白蓮教)。「天下大乱して弥勒下生す」を標語とした。設問4：正解は「ハイドゥ」。フビライ＝ハンの孫アナンダを無視しても正解できる。設問5：正解はエ(祖先祭祀)。典礼問題では祖先祭祀のほかに孔子崇拝も問題となった。中国人キリスト教徒の中心を占めたのは科举官僚であり、彼らは学問の神として孔子廟を礼拝するのを常とした。設問6：正解は「顧炎武」。考証学の祖とされる。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
〔VI〕	フランス革命とナポレオンの台頭	設問1：正解は「テルミドール」。設問2：正解はエ。「教会財産の国有化…」は1789年11月に実施。当時の政体は国民議会(1789年5月～91年10月)。設問3：正解はエ(ブリッソ)。やや細かいがぎりぎり用語集の項目レベルの人物。設問4：正解はウ。「1793年憲法は…施行された」の「施行された」が誤り。「1793年憲法」は問題文にある「人民主権・男子普通選挙・一院制議会」のほかに「人民の生活権」を明記していた。つまり国家は生活困窮者に対して生活扶助を行う義務を負った。これには膨大な財政支出が必要であったため実施は不可能であった。設問5：正解は「バブーフ」。世に言う「バブーフの陰謀(1796年5月)の首謀者。設問6：正解はイ。「マイソール戦争」は南インドのマイソール王国を滅ぼした戦争で仏との植民地争奪戦ではない。設問7：正解は「エジプト」。設問8：正解はア。問題文の「ナポレオンが第一帝政を開始するまでに」は要注意。1804年5月より前ということである。そこでトラファルガー海戦(1805年10月)・アウステルリッツの戦い(1805年12月)・大陸封鎖令(1806年11月)・ティルジット条約(1807年7月)は無論のことロシア遠征(1812)もワーテルローの戦い(1815年6月)も除外されてアだけが残る。	一部難
〔VII〕	世界史上における聖像	設問1：正解は「モーセ」。出エジプトの指導者にしてシナイ山で神から「十戒」を授かった人物として有名。設問2：正解はウ。図像はシナイ半島聖カタリナ修道院の「スス・ハリストス(イエス・キリスト)のイコン」だが、作品を特定するまでもなく画像の特徴から判定可能。設問3：正解はイ(クシャーナ)。設問4：正解はウ。ガンダーラ様式の仏像を選択する問題は一般的。	易

〔総合コメント〕

文学部は文化構想学部とはいわば双子の関係で、かつての第一文学部と第二文学部を再編して生まれた。そのため入試傾向も非常に似ていて当初は早大の他学部と比べると驚くほどやさしい(よくいえば基礎的)な問題が出されていた。しかし年による多少の変動はあっても難化傾向が続いた。ところが2021年以降易化が著しい。2019年の90字をもって消滅した小論述は今年も復活しなかった。小論述廃止は定着したとみていいだろう。大問の展開は2020年以降ほぼ固定化されている。過去問を丁寧にこなせば取組は楽になることは間違いない。美術史としての図版は毎年出題されている。教科書レベルの絵画・美術作品はもちろんのこと図説類も積極的に利用して識別能力を高めておきたい。正誤判定問題のなかには細かいポイントをつく設問が散見される。易しい問題では絶対に失点は許されず、得点差はこの細かい正誤判定での得失で左右されることになる。正誤判定問題の難易度の高い教育や社会学の過去問にも手を広げて問題慣れしておきたい。